

事後評価審議資料
道路事業（道路建設課）

○ 道路改築事業【（国）248号 関バイパス】

- ・平成26年度事後評価箇所表 . . . p 1～3
- ・説明資料（パワーポイント） . . . p 5～13

平成26年度事後評価箇所表

担当課〔道路建設課〕

番号	3	事業名 (路線・河川名等)	道路改築事業 (一般国道248号 関バイパス)
事業実施箇所	にしただわら 関市西田原～ くらし 関市倉知	全体事業費	(当初15,400百万円) 17,100百万円
採択年度	平成6年度	完了年度	平成24年度

事後評価の実施基準 全体事業費5億円以上で、事業完了後概ね1年経過したもの

事業目的

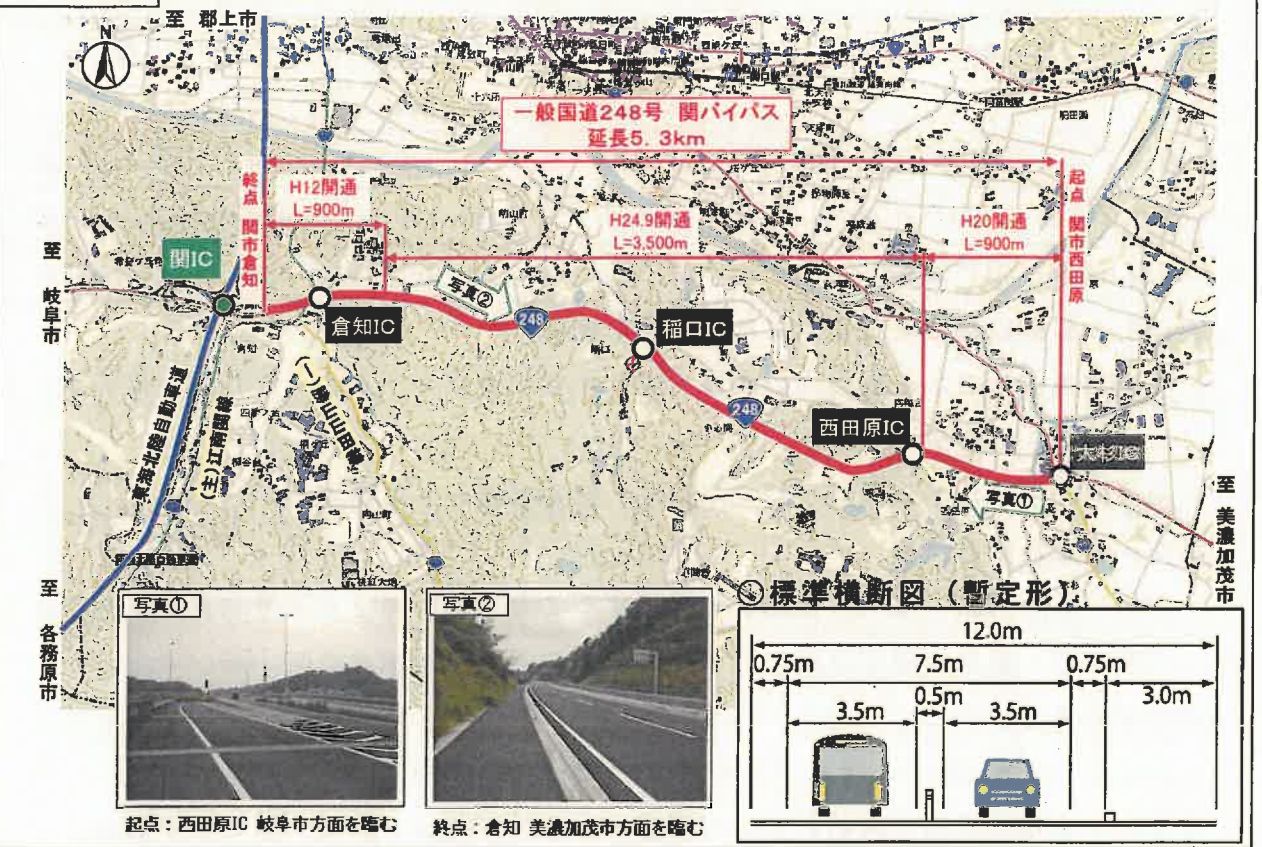
一般国道248号は、愛知県蒲郡市と岐阜県岐阜市を結ぶ総延長約112kmの主要幹線国道である。このうち関バイパスは、関市西田原～倉知に至る延長約5.3kmの道路改築事業である。当該区間の整備により有事に有効に機能する信頼性の高いネットワークの構築、東海北陸自動車道 関ICへのアクセス性向上、関市市街地内の交通混雑の緩和及び連続的な歩道整備による安全な歩行空間の確保等を目指すものである。

事業概要

事業延長 L=5,300m、幅員 W=7.5m(12.0)m(暫定)

主たる工種：盛土工、法面工、擁壁工、排水工、交通安全施設工、舗装工

概要図



評価結果

①住民参加・協働による効果

○事業計画段階では、計画を公に縦覧し、広く住民意見を聴取した。また、事業中および事業後では地元住民参加による現場見学会や現地点検を実施し、道路事業に対する理解やバイパス完成の認知度向上へつながった。

②事業の効果

○東海環状自動車道を補完し、有時に有効に機能する信頼性の高い内環状ネットワークの完成

・関バイパスの開通により県内の国道248号が2車線で完成

○東海北陸自動車道（関IC）へのアクセス性向上

・美濃加茂市方面～東海北陸自動車道（関IC）間のアクセス時間が約5～7分短縮

【黒岩北交差点～倉知西交差点間における平均所要時間】

ルート No.	経由路線	平均所要時間
1	一般県道 勝山山田線	18分
2	関市道	16分
3	国道248号（関バイパス）	11分

○関市市街地内の交通混雑の緩和

・当該工区を並行する関市内東西路線の交通量が減少、市街地の交通混雑緩和

【関バイパス開通前（H24.7）から開通2年後（H26.10）における交通量の推移】

路線名	開通前 (台/12h)	開通2年後 (台/12h)	増減
国道248号旧道(市街地部)	12,200	11,000	1,200台/12h(10%)減
国道248号(関バイパス)	15,100	20,100	5,000台/12h(33%)増
市道(関バイパス北側)	15,100	8,800	6,300台/12h(58%)減

○連続的な歩道整備による安全な歩行空間の確保

・美濃加茂市方面から関市内の高校へ通う生徒の通学ルートが、より安全性の高い当該バイパスに変更

・関市内の中学校が当該バイパス歩道を一部通学路として指定

○消防・救急活動の支援

・消防、救急活動の際に当該路線を活用することで、国道248号現道の交通混雑を回避でき、搬送時間が短縮され、搬送者への負担も軽減されている。

○費用対効果分析

・国道248号 関バイパスのB/Cは1.8と算定。

・1.0を超える値であることから事業の妥当性が確保されていることを確認。

③環境面への配慮

○生活環境への配慮：騒音調査の実施

- ・関バイパス開通後、全ての時間帯において環境基準を下回る騒音レベルであることを確認。

④事業を巡る社会経済情勢の変化

○岐阜・中濃・東濃圏域間の新たな広域ネットワークの完成

- ・関バイパス着手後、国道248号その他バイパス、東海環状自動車道が順次開通。関バイパス開通により、国道248号が2車線で完成。
- ・岐阜方面と美濃加茂方面をつなぐ新たなネットワークの完成。

⑤利用者・地域住民等への効果

○利用者へのアンケート調査結果

- ・当該区間の整備に対して、約82%が満足と回答。（「やや満足」を含む）
- ・特に、移動時間の短縮や、信号がなく快適に走行できることに関しても高い評価を得ている。（「やや満足」を含む）

⑥対応方針（案）

（今後の事業評価の必要性の有無）

○走行時間短縮、市内の混雑解消及び安全性の向上等、事業効果を確認。

○沿線住民等へのアンケートにおいて、8割以上の「満足」を確認。

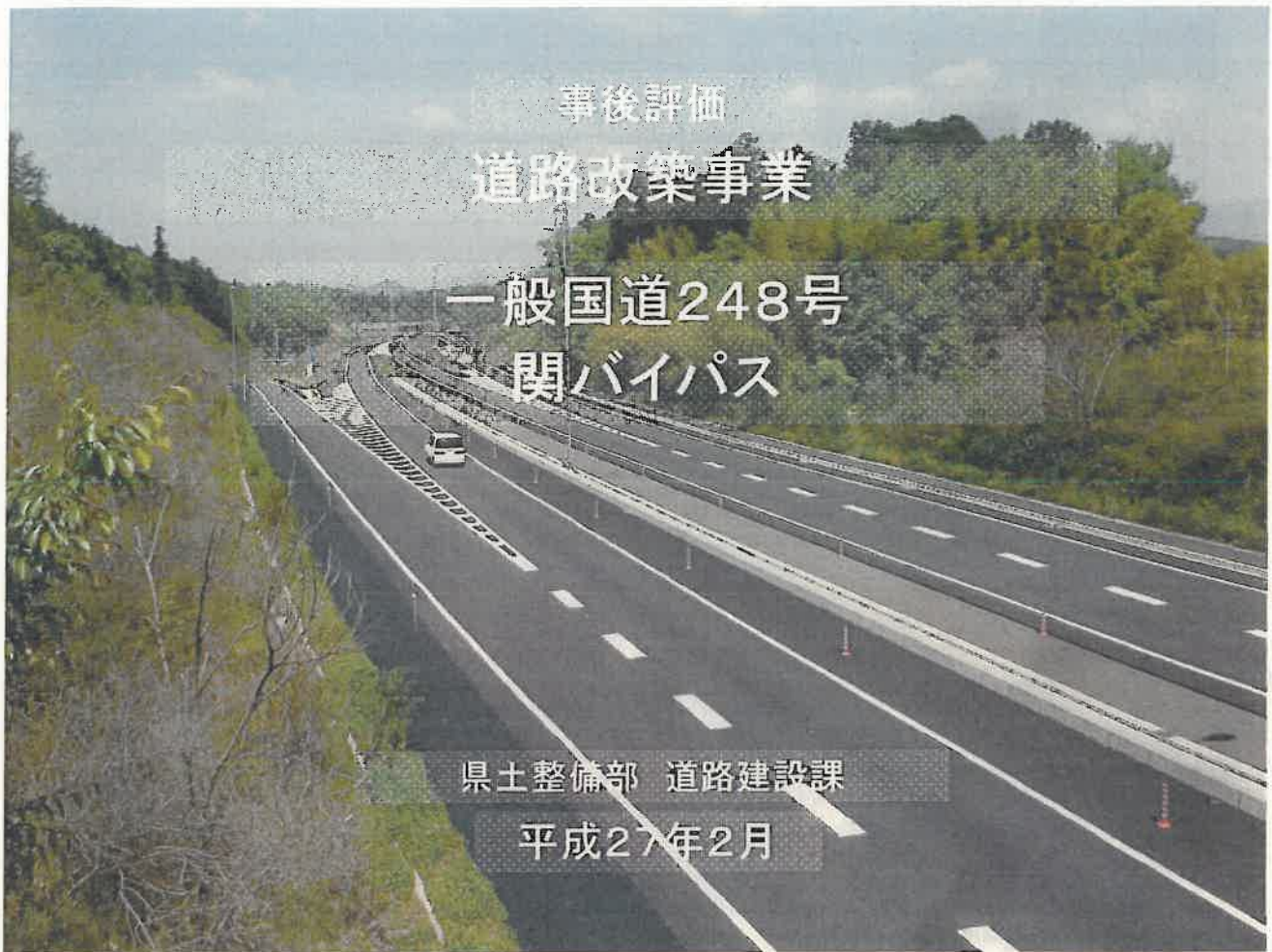
⇒以上の点から、今の段階では今後の事業評価の必要なしと判断。

（改善措置の必要性）

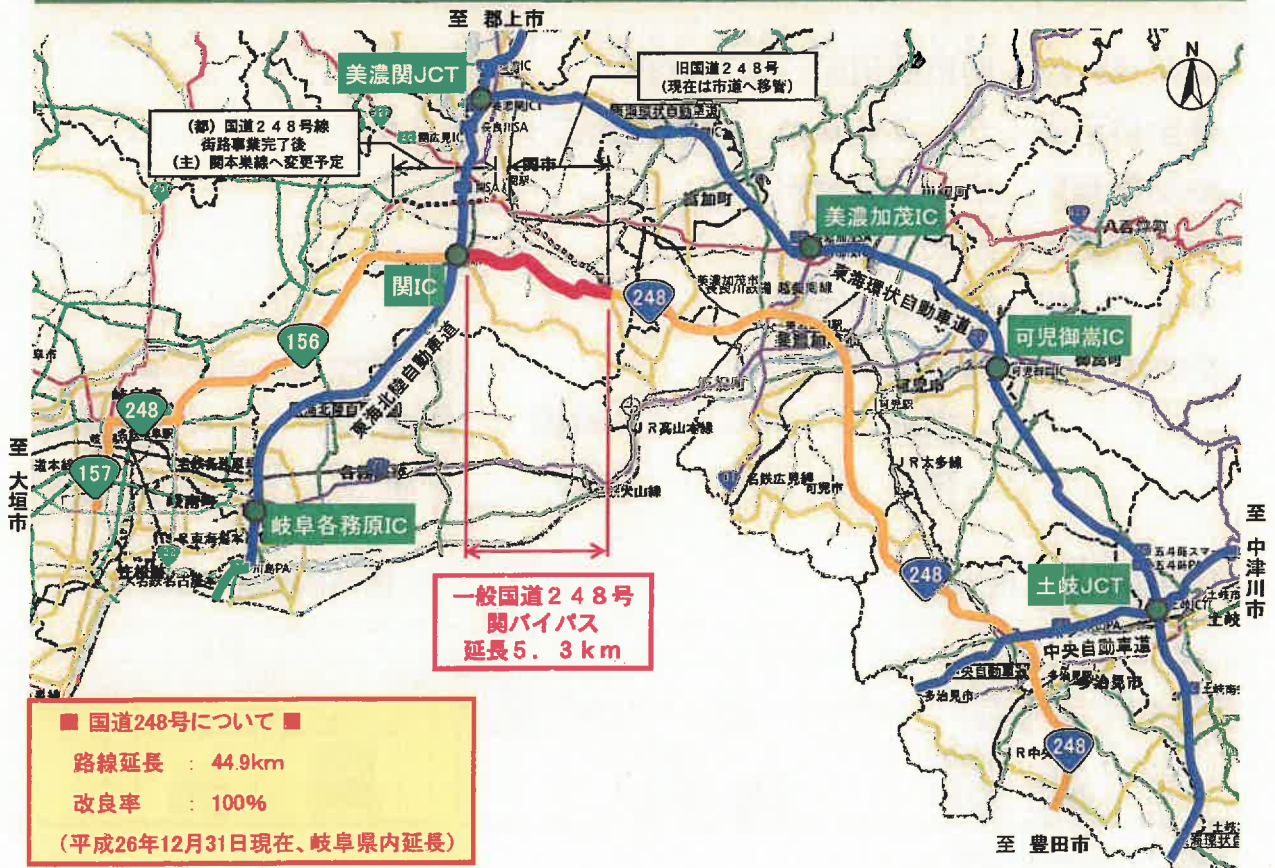
○今の段階では改善措置の必要なし。今後、新たな課題が生じた場合には対応していく。

（新規事業へ適用すべき留意点）

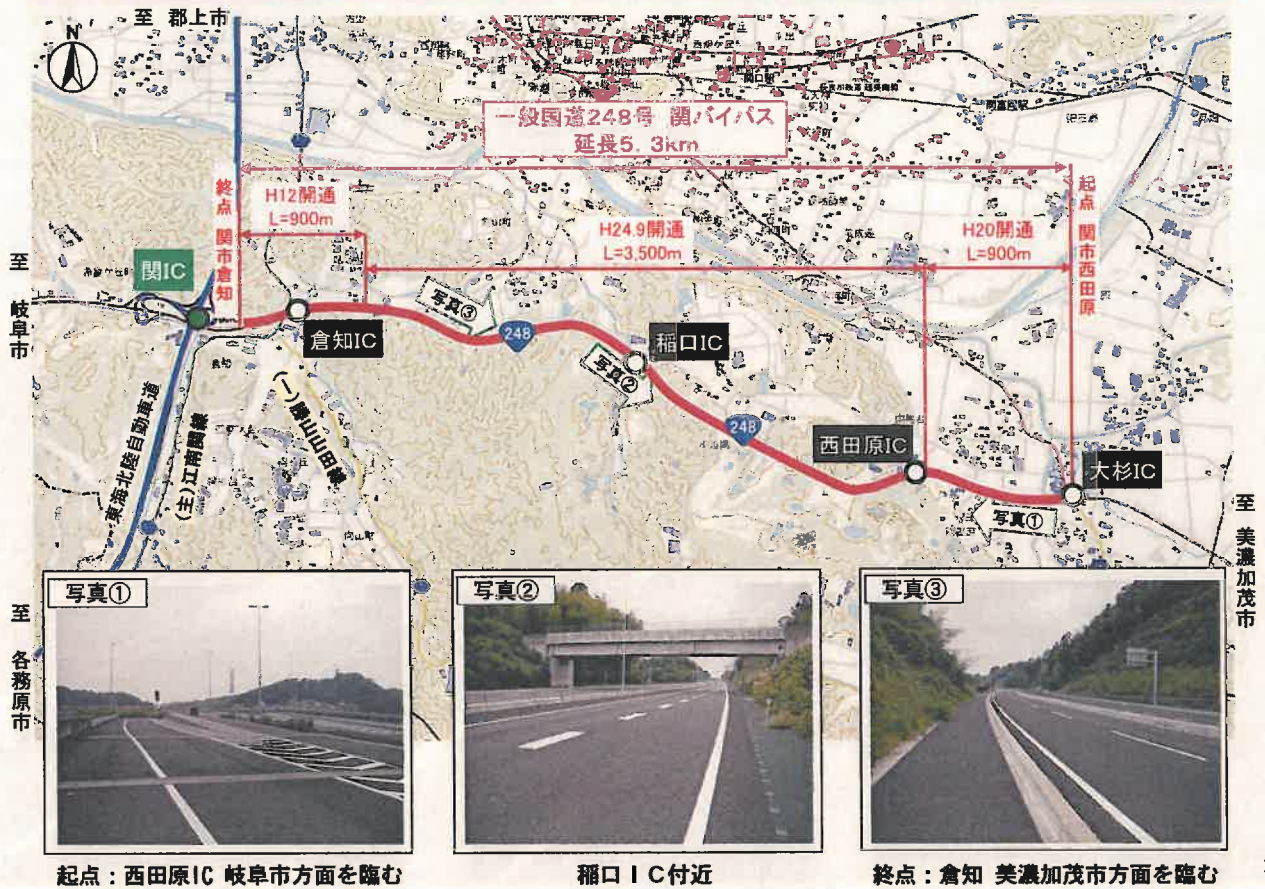
○今後も引き続き、交通量の推移を十分注視しながら、計画的に事業を立案、推進していく。



位置図 ①



位置図 ②



3

事業概要

◆起 終 点：^{せきし にしたわら} 関市西田原～^{せきし くらち} 関市倉知

◆全体延長：5,300m (内橋梁延長：402m)

◆総事業費：約170億円

◆事業着手：平成6年度

◆完 成：平成24年度

◆将来幅員：【将来形】

車道 3.50m×4車線

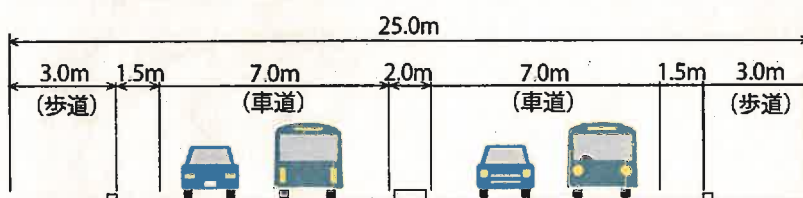
歩道 3.00m (両側)

【暫定形 ※今回整備】

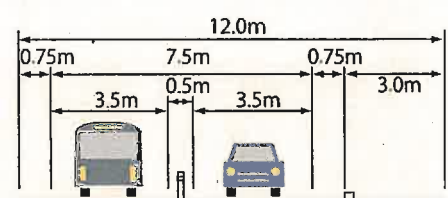
車道 3.50m×2車線

歩道 3.00m (片側)

○ 標準横断面 (将来形)



○ 標準横断面 (暫定形)



※都市計画決定幅員

4

住民の参加・協働による効果

◆計画段階、事業中及び事業後の住民参加による効果

- 計画段階：計画を公に縦覧し、広く住民意見を聴取
- 事業中：地元住民参加による現場見学会を開催
- 事業後：地元住民参加による現場点検の実施

◆事業中：現場見学会の実施



現場において、工事に対する是正事項やご意見などを伺いながら事業を進めた。これにより、一層事業への理解が深まった。

◆事業後：地元住民参加による現場点検の実施

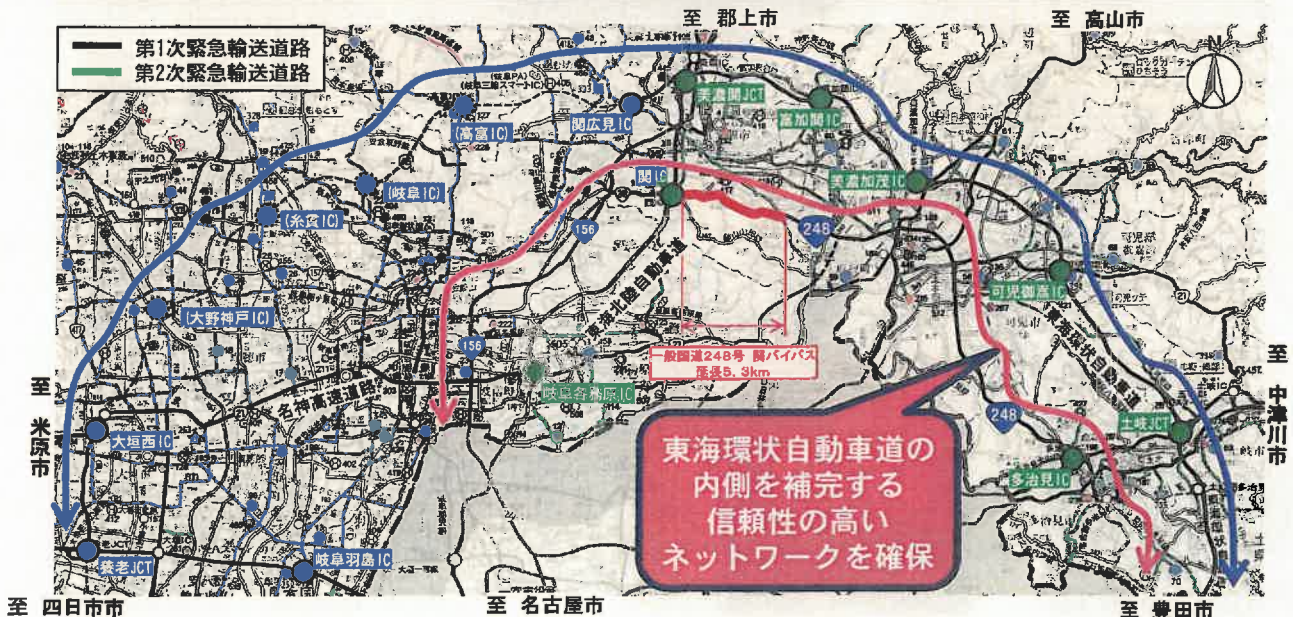


地元住民とともに工区全体を徒歩で点検し意見を聴取した。これにより、バイパス完成の認知度向上にもつながった。

事業の効果 ①

安全・安心：東海環状自動車道を補完し、災害時に有効に機能する信頼性の高い内環状ネットワークの形成

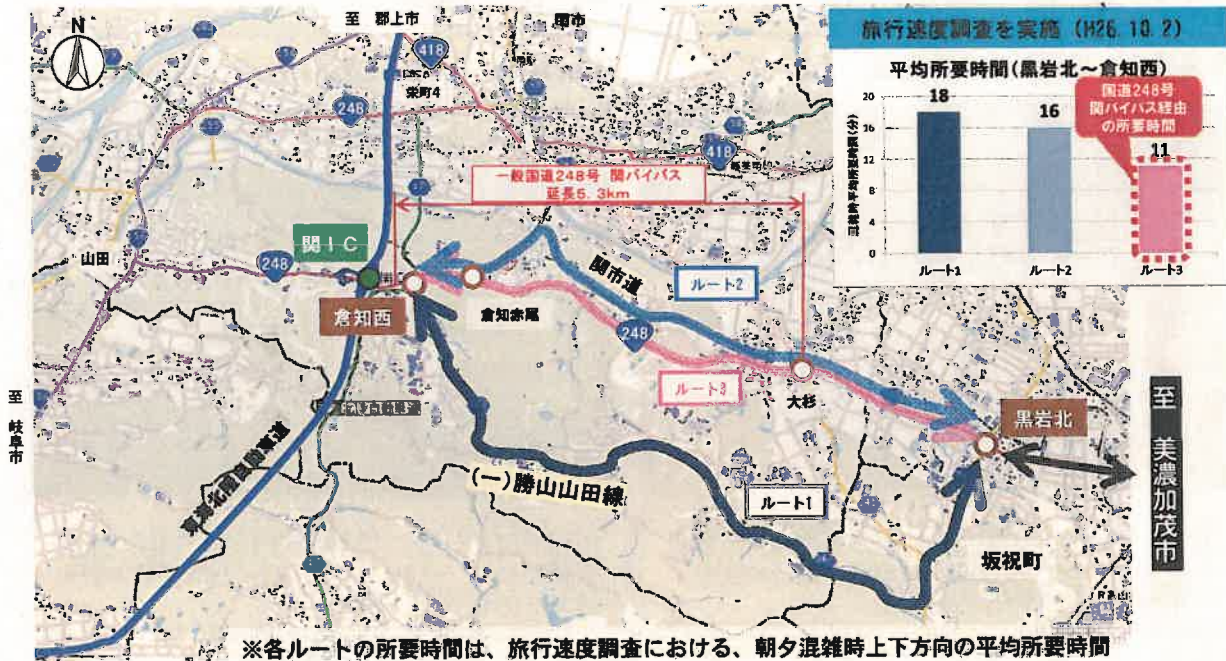
- 国道248号および東海環状自動車道は第1次緊急輸送道路に指定
- 関バイパスの開通により、県内の国道248号が2車線で完成



事業の効果②

活力：東海北陸自動車道 関ICへのアクセス性向上

- 美濃加茂市又は坂祝町～東海北陸自動車道（関IC）間のアクセス時間が5～7分短縮

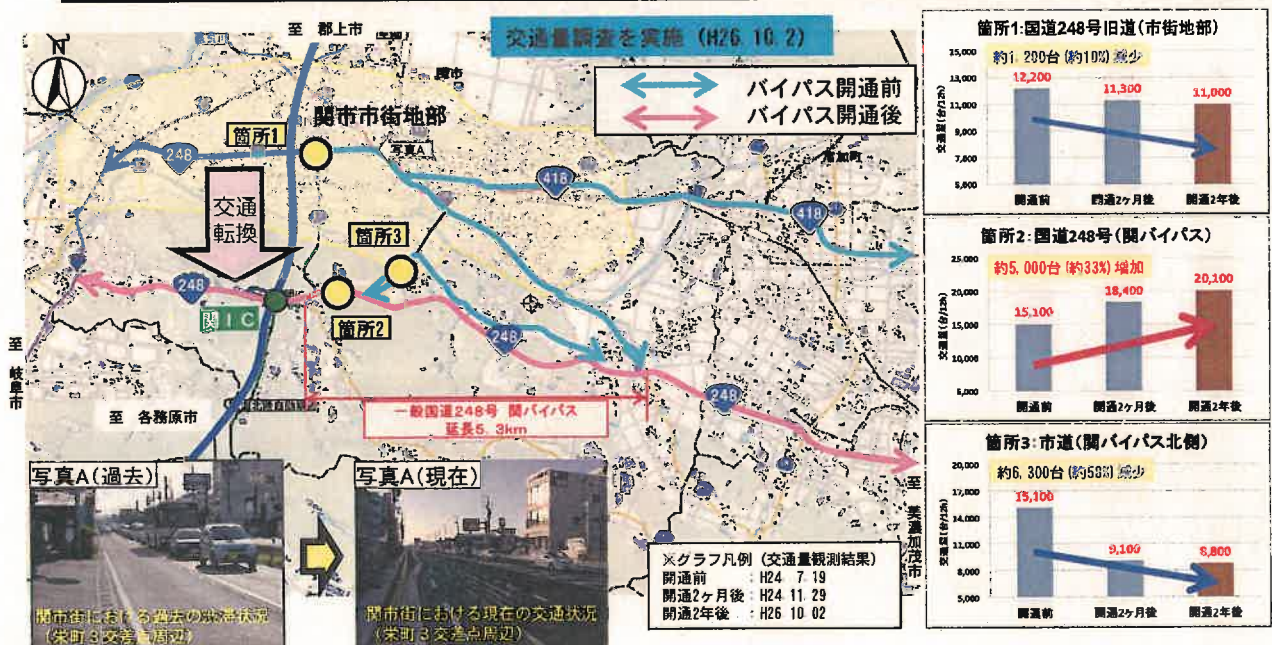


7

事業の効果③

活力：関市市街地内の交通混雑の緩和

- 当該工区を並行する関市内東西路線の交通量が減少、交通が円滑化
- 美濃加茂市、坂祝町方面からの通過交通が分散し、関市市街地や住宅地における交通混雑を緩和



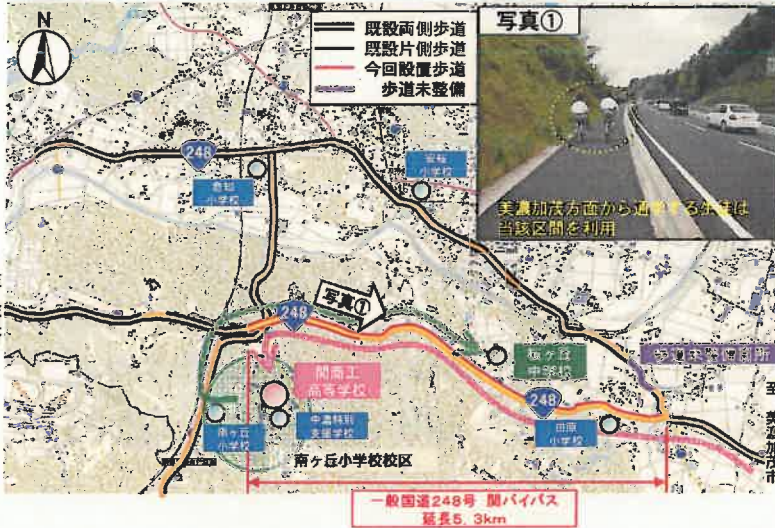
8

事業の効果④

安全・安心: 連続的な歩道整備による安全な歩行空間の確保

- 美濃加茂市方面から関市内の高校へ通う生徒の通学ルートが、より安全性の高い当該バイパスに変更された。
- 関市内の中学校が当該バイパス歩道を通学路として活用

- ◆関市内の高校生に、ヒアリング調査を実施 (H26. 9. 16)
- ◆関市教育委員会に、ヒアリング調査を実施 (H26. 11. 21)



◆通学生徒からの声
通学ルートを関バイパスに変更
⇒広い歩道で通行しやすく、安全性向上!



- ・連続的に歩道が整備され、自転車にとって安全に通行できるようになった。
- ・歩道が広く自転車のすれ違いが楽になり、車道にはみだす必要がなくなり安全になった。
- ・通行する信号交差点が少なくなり、ヒヤリハットが減少。

◆関市教育委員会からの声
バイパス歩道一部を通学路に指定 (桜ヶ丘中学校)



- ・南ヶ丘小学校区から通学する生徒は通学路となった。
- ・時間が短縮されたこと、また、歩道があることで安全面でも効果があった。

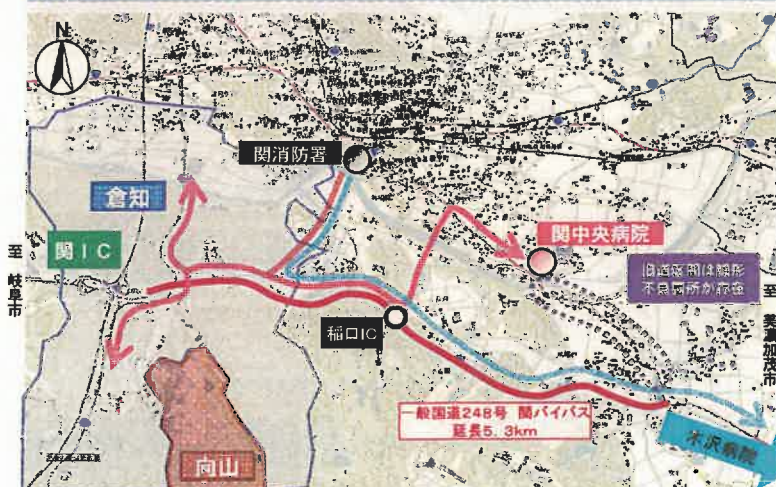
9

事業の効果⑤

安全・安心: 消防・救急活動の支援

- 消防・救急活動の際、当該路線を經由し連絡
- 国道248号旧道の交通混雑を回避し、所要時間の短縮
- 信号交差点の通過回数が減少し、搬送時の安全性向上

消防署に対し、ヒアリング調査を実施 (H26. 9. 7)



◆消防署からの声
搬送ルートを関バイパスに変更
⇒所要時間が短縮、安全性が向上!



- ・混雑する市街地部を避けることができ、所要時間が短縮。
- ・搬送後の帰りの際もバイパスを走行し、次の出動への準備がスムーズになった。
- ・信号交差点の通過回数が減少し、他の車に気を遣うことなく安全に搬送。
- ・現道区間と比べて線形が緩やかなので、患者の負担が減少。

※倉知および向山地区と関中央病院の連絡性が向上

10

費用対効果分析

事業の効果

- 走行時間短縮便益 …… 効果全体の約 95%
- 走行経費減少便益 …… 効果全体の約 4%
- 交通事故減少便益 …… 効果全体の約 1%

投資的效果率

$$\frac{\text{総便益 (B)}}{\text{総費用 (C)}} = 1.8 (\text{全体})$$

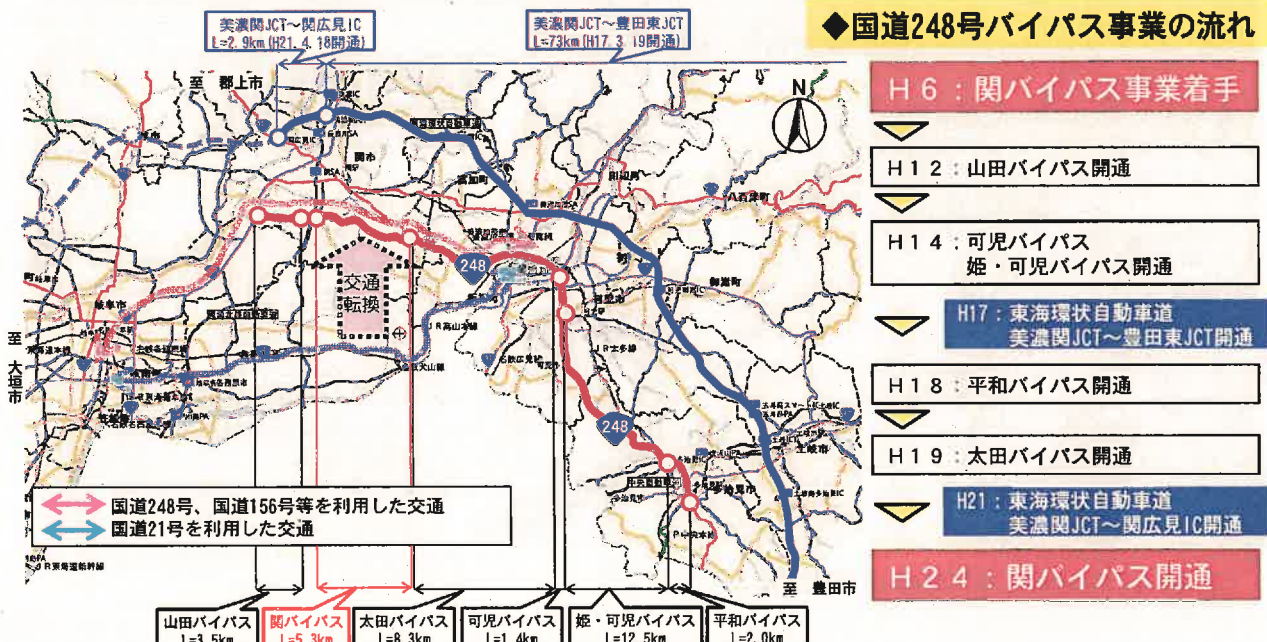
※費用便益分析マニュアル（国土交通省H20.11）に基づき算出

11

事業を巡る社会経済情勢の変化

◆岐阜・中濃・東濃圏域間の新たな広域ネットワークの完成

- 関バイパス着手後、国道248号その他バイパス、東海環状自動車道が順次開通。関バイパス開通により、国道248号が2車線で完成
- 岐阜方面と美濃加茂方面をつなぐ新たなネットワークの完成



12

環境面への配慮

◆生活環境への配慮：騒音調査の実施

- 関バイパス開通後、稲口IC付近の住居にて交通騒音調査を実施
- 騒音調査により、全時間帯において環境基準の騒音レベルを下回っていることを確認



◆騒音レベルの例

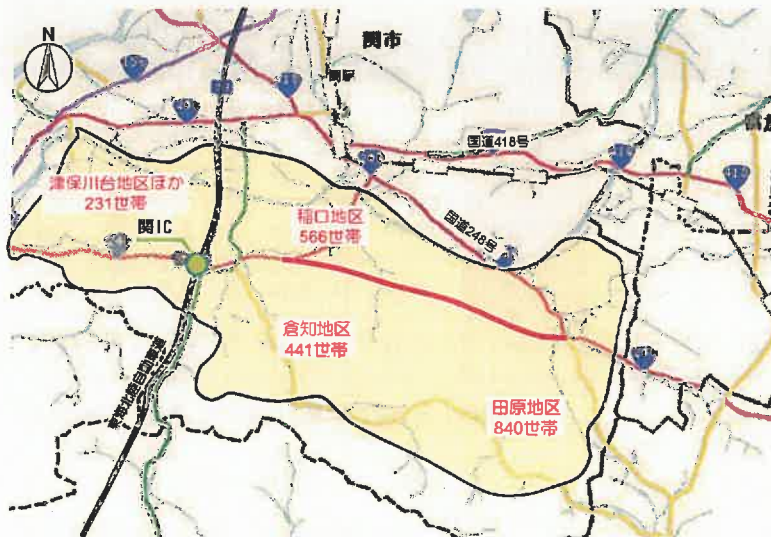
90.0dB	パチンコ店内
80.0dB	ゲームセンター店内
70.0dB	建設機の室内 在来鉄道の新内 新幹線の車内 バスの中 新幹線の車内
60.0dB	一般道路周辺(昼間) ファミリーレストランの店内 郵便局の窓口周辺 博物館の館内 海辺
50.0dB	役場の窓口周辺 書店の店内
40.0dB	公園(昼間) 町の戸建住宅地(昼間) 図書館の館内 山村の田畑 山間の戸建住宅地(昼間) 町の戸建住宅地(昼間)
30.0dB	山間の戸建住宅地(夜間)

※参考 環境省 一般環境騒音について

利用者・地域住民等への効果①

◆アンケート調査地区の設定

- 当該路線を利用すると考えられる周辺の自治会を無作為に抽出
- アンケート調査地区は、当該路線周辺の以下の地区を設定



アンケート調査票数

	合計
配布枚数	2,078票
回収票数	653票
回収率	31.4%

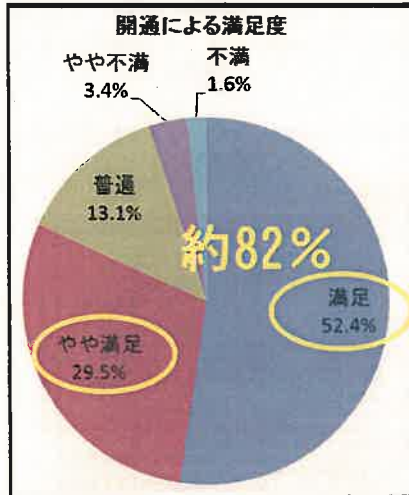
利用者・地域住民等への効果②

◆アンケート調査結果（事業に対する満足度）

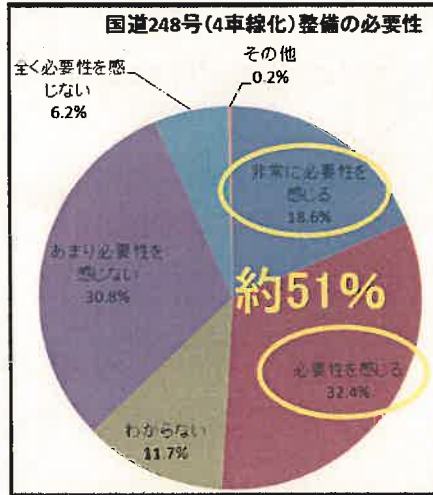
- 当該区間開通に対し、約82%の利用者が「満足・やや満足」と回答
- 当該路線の4車線化整備の必要性に対し、約51%が「必要性を感じる」と回答

アンケート調査結果

開通に対する全体的な満足度



将来形（4車線化）への必要性



◆自由回答意見

- ・とても走りやすく便利になり、快適になった。
- ・市街地部の国道248号の交通量が減少し、通行しやすくなった。
- ・バイパス開通により交通量は増加しているうえ、高い速度での対面走行に不安感があるため、早期に4車線化して欲しい。

15

利用者・地域住民等への効果③

◆アンケート調査結果（利用頻度別）

- 当該路線を利用する人の大半が「移動時間の短縮」「信号がなく快適に走行」に効果があると回答

アンケート調査結果（利用頻度別）

利用頻度	整備効果								
	渋滞の回避	移動時間短縮	医療施設へのアクセス向上	韓良狭小区間回避	信号がなく快適に走行	歩道の整備	通過交通の減少	地域の活性化	地域間の連携
ほぼ毎日	12.3%	25.0%	2.3%	17.8%	19.8%	8.1%	11.2%	2.3%	1.3%
週に2~3回	11.1%	27.0%	2.0%	18.1%	21.4%	7.5%	9.5%	2.2%	1.2%
週に1回	10.0%	26.9%	1.4%	17.9%	22.0%	8.4%	9.5%	2.6%	1.4%
月に1度	9.3%	30.7%	0.7%	17.2%	25.1%	8.1%	5.6%	2.3%	1.1%
利用したことがない	22.2%	22.2%	0.0%	0.0%	0.0%	11.1%	22.2%	11.1%	11.1%

単位：％（無回答票、「わからない」の回答は除く）

16

対 応 方 針 (案)

◆今後の事後評価の必要性の有無

- 走行時間短縮、市内の混雑解消及び安全性の向上等、事業効果を確認
- 沿線住民等へのアンケートにて8割以上の「満足」を確認
⇒今の段階では今後の事後評価の必要なし

◆改善措置の必要性

- 今の段階では改善措置の必要なし
- 今後、新たな課題が生じた場合には対応していく

◆新規事業への適用すべき留意点

- 今後も引き続き、交通量の推移を十分注視しながら、計画的に事業を立案、推進していく。

